

第42回新日美展 ワークショップ

切り絵体験
「工芸の素晴らしさ」

栃木支部 湯澤 朱美

ワークショップの際、森屋代表をはじめとした皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。お陰様で多くの方々にご来館いただき、盛況のうちに終了することができました。これもひとえに委員の方々のご支援あつてのことと改めて感謝いたしております。

私、工芸とは実用品に芸術的な意匠を施し機能性と美学的な美しさを融合させた工作物で、緻密な手作業によって制作される手の技ではないかと思っております。



会場風景

切り絵は、古くより神様の儀式に使われておりました。現在は染物師が使う染の型紙などで

も使用しております。そんな匠の技から生まれた切り絵も今では進化を遂げ、白黒だけではなく色鮮やかに仕上げた物もあります。

また「貼り絵」や「ちぎり絵」と混同されたりしております。ハサミで紙を切っていく寄席芸の切り絵と思われる事が多かったりと、まだまだ切り絵の認知度は高くありません。

少しずつでも、ワークショップ等も行いながら多くの方々に切り絵工芸の素晴らしさを広めたいと考えております。

「作画ステップ」を終えて

東京東支部 土屋 政夫

新日美展示期間中の会場では主題についてお話しする機会を頂戴しました。森屋代表の段階別制作のワークショップでもやってみたらとの一言で気軽に引き受けてしまいました。事を具体化する段でどうしたらいいか分からなくなりました。

実際に絵を描いているところを見てもらう。これでは大道芸と変わりません。作者はステップ毎に作画の考えや技法、完成形の方角付けをしながら制作してい

きます。

私の考え方を伝えようとして、勢い難しい講演になってしまいました。皆様に伝わったか心配です。

終わった後に、自分が何を伝えたかったのか考え直してみました。一言でいえば「コピーから創作へ」になりました。もっと吟味してからワークショップに臨めばよかったと反省しきりです。何かの折に「コピーから創作へ」の話させて頂ければと思っております。



準備万端

新日美展に 参加して光栄



千葉支部 酒井 久夫

先ずは代表、事務局長はじめ委員の先生方、そして会員の皆様に御礼申し上げます。楽しい第四二回展でした。有難う御座居ます。

お陰様で今回は特に明るくて爽やかなムードの会の中に、楽しく参加させて頂き感謝致しております。やはり新日美会は家族の様な気持ちで参加でき、意志の通った人達ばかりでの素晴らしき集いを感じます。特に全体的にみて、クールな感じと明るさ、そしてストーリーが統一されているかを感じました。そして癒されました。

私のはお粗末作品で残念でしたが、次回は新たに挑戦します。皆様の作品を鑑賞させて頂いて、感動し巧みな描写と表現力等、沢山の教訓を教わりました。大いに勉強になりました。

私の思いますに、これからの未来こそ難しい環境が予測されますにつけ、すべての絵を愛する人々が描いて、観て感動する作品は、やはり心に残ります。描いてみたい。ゆっくり観てみたい。

人それぞれが抵抗なく参加してみようと思う人達が、もっと多くなれば、きっと楽しい芸術の世界が広がるだろうと、夢を描いています。

新日美の躍進に拍手！